

高田ロータリークラブプレゼンツ

同時開催!!

フクシ×アート×デザイン展Ⅱ

障害のある方の作品を活用した新作グッズの展示即売会を開催します!



高田ロータリークラブでは、フクシとアートとデザインを融合させたグッズの展示・販売会を開催します。2021年7月に新潟県下に自身のアート作品を製品化したい障害のある方を公募した結果、42名の方からご応募がありました。今回の展示即売会ではうち12名の方の作品がグッズになります。とても素敵なグッズになりましたのでぜひ会場に足をお運びください。さらに経費を除いた売り上げは、フードバンクじょうえつに全額寄付をします。フードバンクじょうえつは、寄付等により食材をストックし緊急的に食を必要としている方に支援を行う団体です。いわば命をつなぐ活動をしています。このプロジェクトで面白いところは、困っていること同士の掛け算をするとプラスに転じる可能性が見えてきたということです。これからの社会を照らす一つの方向性かもしれません。

展示会日時 2021年11月19日(金)～23日(火・祝) 10:00～18:00

展示会場 無印良品 直江津店

〒942-0004 新潟県上越市西本町3丁目8-8
直江津ショッピングセンターエルモール2F

主催 国際ロータリー第2560地区高田ロータリークラブ

協力 社会福祉法人みんなでき



ロータリークラブとは?

会員各々の活動・職業を通じて、より良い地域社会、国際社会を創り上げる為に交流と研鑽・連帯をもって活動しているグループで、世界に200万人近くの人々が参加しています。高田ロータリークラブは、その1つです。ロータリークラブは、奉仕をする人々の集まりです。

ぼくらのShuShuShuプロジェクトのお酒も展示会中に Open MUJI で販売予定です。

新型コロナウイルスの感染防止対策とお願い

- ・展示室の混雑状況によっては入場制限を行う場合があります。
- ・館内ではマスクの着用をお願いします。
- ・ご入館後は手洗い、咳エチケットなどの一般的な感染症対策をお願いいたします。
- ・咳・発熱などの症状がある方、体調に不安のある方、新型コロナウイルス感染者や感染の疑いが高い方に濃厚接触のあった方はご来館をご遠慮くださいますようお願いいたします。



2021.11.19(金)～11.23(火・祝) 10:00～20:00
※最終日の23日は17:00まで

ぼくらのアール・ブリュット ART BRUT

会場 無印良品 直江津店 Open MUJI (上越市西本町3丁目8-8)

主催 ぼくらのアール・ブリュット実行委員会

補助 新潟県文化芸術活動支援事業補助金

協力 新潟県アール・ブリュット・サポート・センター-NASC



令和3年度 新潟県障害者芸術文化活動普及支援事業

ぼくらのアール・ブリュット ART BRUT

アートって難しい？

アートって分からない？

ぼくらのアール・ブリュットに心の壁はありません。

地元の表現者や家族、支援者が自分たちで作った展示です。

作品も表現者も作り方も人それぞれ。

平面だったり立体だったり、綺麗だったり不思議だったり、

個性豊かな表現に何だか心がざわざわする。

どんな見方も感じ方も正解・不正解という壁はありません。

心に壁を作って見てたらもったいない！

ほら、その壁をこえて、壁のない表現に触れてみてください。

壁の先、ぼくらはここでいきる。ここでつくる。



押山 優樹 YUUKI OSHIYAMA

僕は幼い頃から電車が大好きで、電車の中でも日本の車両が大好きです。小学生の頃から鉄道の撮影をすることが好きになりました。今は一眼レフカメラで撮影しています。鉄道だけでなく、景色も撮影しています。僕の撮影した写真を見ながら旅行に行った気分になってもらいたいです。僕の夢は、日本全国の鉄道に乗ることです。全国のジョイフルトレインにも乗りたいです。



石塚 杏珠 ANJU ISHIZUKA

はじめて絵を描いたのは4才のころ。はじめてかいた絵はなぜか「冷蔵庫」。5才になるころ「人」の絵を描きはじめた。一現在描く絵は変化をとげ、カラフルな色使いへ。最近では洋服の絵をかいたり、裁縫で人形の洋服を作っては着せて、囲まれるように床にならべ、眺めてはうっとりとしています♡そんな杏珠の世界を少しでも感じていただけたらと思います！



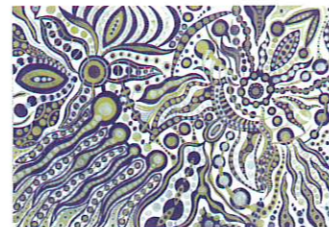
堀井 銀次 GINZI HORII

絵を描く活動にあたって特別な指導は受けておらず、紙・画材を自ら選び制作に打ち込んでいる。サインペンを好んで使い、細部まできちんと塗りつぶす作業は丁寧に時間をかけて行っている。絵を描く際は、下書きなど一切せず直線も定規など使わずに描いていく。彼独特の色彩感覚はとて鮮やかで多くの人の目を楽しませている。



佐藤 葉月 HADUKI SATOU

自閉症スペクトラム当事者。32歳の時、ハガキサイズのスケッチブックと出会い絵を書き始める。単色で不思議な模様を描く制作。独特なタイトルと作品を見て感じた一言を書いた裏面までが一つの作品。絵もさる事ながら、エッジの効いたタイトルと一言のファンも多数。蚊に刺されやすいO型。最近では多色化しカラフルな色合いになった。



西須 奈津子 NATSUKO SAISU

動物を描く事が多くある彼女だが、最近特に力を入れて描いているのが「猫」である。写真などから自分のイメージに合うものをじっくり探し、描き始めるが、一つとも写真を写すものはない。写真からさらなる想像を膨らまし自分の世界にと変えている。その絵は、とても愛嬌のあるしぐさなどの確にとらえくすと笑ってしまうものが多い。



馬場 悠斗 HARUTO BABA

幼児期から数字に興味を持ち、5歳頃からクレパスで数字を描くようになる。紙にとどまらず、床でも壁でも構わず描いてしまうほどのめり込んでいました。数字と色の組み合わせには、1ブルー、2グリーン、3ピンク…と規則性があります。時期によって描き方は変化しますが、ずっと数字を描き続けています。力強いもの、ふんわり優しいもの、飛び跳ねたもの…16色のクレパスをまぜていろいろな色で表現します。



坂井 亮円 RYOEN SAKAI

僕が織物をやる前の10年以上前の30代後半のころの作品を今回は自分を回想する意味で発表したいと思います。僕は写真や絵画に挑戦し、最終的に今は織物をやっています。でもそんな僕の10年以上前のいわば青春を振り返る意味で、今回はこんな絵画の作品を発表したいと思います。つたない作品ですが、どうかご覧ください。



長田 匠 TAKUMI OSADA

カラフルで楽しい絵を描くことが好きです。幼少期はカレンダーの裏紙いっぱい魚や恐竜、キノコなどを黙々と描いていました。今は自分がおもしろい、かわいいと感じたものを描いています。絵の具を混ぜ合わせて好きな色を作ります。その楽しさを知り、思いのままに描きます。「絵を見てくれた人が笑顔になりますように」



梅川 稚樵 本名：哲資ひろし CHISYOU UMEGAWA

1941年11月15日生まれ。幼いころから言葉が話すことができず、母の教育により絵を幼少より描き、働きながら絵を描き、上越市展で無鑑査になった水彩画家です。2017年7月21日75歳で永眠されていますが、障害を持ちながら、上越市展で無鑑査になった優れた才能を持っていた方をこの持ち寄り展で紹介し、彼をしのびたいと思い、出品いたしました。

友人代表坂井亮円記

